

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第 2660 地区)

WEEKLY BULIETIN

No.40

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30～  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪 3F  
事務局 大阪市天王寺区石ヶ辻町2-8  
〒543-0031 クレアツィオーネ上本町 704号  
TEL : 06-6772-2320  
FAX : 06-6772-2327  
E-mail : hcrc@at.wakwak.com



会長 小川 高弘  
会長ノミニー 宮田 照男  
副会長 金子 勝信  
幹事 中村 徹  
会報委員長 瀧田 浩彦

## Rotary Serving Humanity

人類に奉仕するロータリー

2016～2017 年度 国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

第 2053 回例会 平成 29 年 6 月 12 日 (月曜日) 第 40 号

**本日の例会** 6月12日(月) 第2例会

◎ソング 「奉仕の理想」  
◎卓話 「原子力発電の情勢について」  
担当：佐藤三千秋会員

◎本日の献立 「おまかせ定食」

**次回の例会** 6月19日(月) 第3例会

『会長年度末挨拶 小川 高弘会長』

**前回の例会** 6月5日(月) 第1例会

◎ ゲスト IM第4組 ガバナー補佐 林芳繁様  
◎ビジター うつぼRC 小林 厚様  
大阪南RC 松本 晴次様

**会長挨拶** 会長 小川 高弘

皆様、こんにちは。

先週の金曜日に大阪水都ロータリークラブの国際ロータリー第2660地区加盟認証状伝達式に中村幹事と出席してきました。地区役員として、百済ガバナー補佐エレクトも出席されていました。

それでは、大阪水都ロータリークラブについての情報をお伝えします。発起人及び会長が梶田梓聞氏、梶田氏は元東大阪東ロータリークラブの会員です。

幹事は岩谷佳也子氏、副会長は元大阪市市長の平松邦夫氏です。チャーターメンバーは36名、現在44名です。

例会場は、梅田の中央電気倶楽部

例会日は、第一、第三火曜日の月二回で、

19:00～20:00です。

事務局は東大阪です。入会金は¥5,000円、年会費は¥90,000です。

尚、大阪水都ロータリークラブは、2660地区では5年ぶりの新クラブで、地区では82番目、日本では2962番目のロータリークラブです。

IMに関してはIM5組です。

今回、私自身チャーターナイトの出席は初めてで、会長をさせて頂いていて、そのタイミングでチャーターナイトに出席できたことは非常に幸運だと感じました。

**幹事報告** 幹事 中村 徹

1. 本日、例会終了後、3階「葛城の間」にて新旧クラブ協議会及び新旧理事会が開催されます。各委員会報告書、計画書は発表後幹事にお渡しくださいますようお願いいたします。

**出席報告**

本日の会員数	21名
本日の出席者数	19名
本日の出席規定適用免除会員	9名
本日の出席率	95.45%
5月8日の修正出席率	90.31%

**6月のお祝い**

○入会記念日 近藤会員  
○会員誕生日 伊藤会員  
○夫人誕生日 瀧田 房江様  
○創業記念日 近藤 藤原 宮田 岩橋 (各会員)  
○5月の内祝いニコニコ 累計 570,000円  
○5月のニコニコ箱 36,000円 累計 1367,000円

**ニコニコ箱報告**

小川会長 本日は、新旧クラブ協議会です。林ガバナー補佐様宜しくお願い致します。  
中村幹事 林ガバナー補佐様、本日のクラブ協議会よろしくお願い致します。  
佐井会員 ヨーロッパ旅行、皆様のお蔭で無事に帰国しました。  
岩橋会員 野田先生、本日の卓話宜しくお願い致します。

## 【人生は必ず変えられる。】

チェンジングライフ代表・アドラム・キリスト教会牧師

私は教会の牧師として、また、非行少年の中でも、とりわけ、一家離散や虐待、養育拒否などで、親や住む家を失った少年の生活拠点の創出、自立支援をしております。

わたし自身が、非行少年で少年院に

送致された過去があります。自己紹介を兼ねてわたしが非行に至った経緯を簡単にお話させていただきます。

3歳の時に父が経営していた会社が倒産し、物心ついたころは、母と兄二人と、ボロボロのアパートで、借家住まいでした。それから、小学校3年の時、家は引っ越し、池島町というところの店舗付き3F建ての住宅で、母は1Fでスナックを経営しました。そんなある日、母と話していた時、何気なく、言われた言葉がありました。その言葉にわたしはひどく傷つき、大人に対する不信感や嫌悪感を抱くようになりました。その後、兄の病氣、また、私自身の将来への不安から、私の心のブレーキは壊れ、不良仲間と遊ぶようになりました。

バイクを盗む。ケンカをする。シンナーを吸う。交番所を壊す。16歳の時、初めて逮捕されました。鑑別所を出て、また、同じ繰り返しです。17歳でまた、逮捕され、何とか、鑑別所に出てきたあとは、覚せい剤にも手を出すようになりました。19歳の時、4度目に逮捕された時、鑑別所の中で、このままでいいのかなと考えましたが、簡単にひき戻れる状況ではありませんでした。

そのころ、一番の上の兄がキリスト教徒になっていたのを聞いていたので聖書を読みたいと思っていたのですが、躁鬱病を患っていた次兄が、面会に来て、クリスチャンの兄からことづけられて、聖書を差し入れてくれました。その後、審判が行われ、わたしは長期少年院送致を言い渡されました。

その時、うしろにいた母が突然、泣きわめきました。『この子を少年院に入れるんやったら、わたしを代わりに刑務所に入れてください。わたしの育て方が悪かったんです。わたしのせいでこの子はこうなったんです。』嗚咽していたので、こんなに流暢ではありません。途切れ途切れ、そう叫びました。わたしは母のせいでグレたなどと一度も思ったこともないし、母に暴力したことも一度もありません。自分の生きづらさやしんどさに対して、目を背け、楽な道に逃げたのは私です。しかし、母は自分の育て方が悪かったと自分を断罪し、嗚咽しながら、母は、この子を少年院に入れなくてくれと泣きわめきました。わたしも嗚咽して泣きました。その時、不思議ですが、わたしの心の深層に隠れていた母に対するわだかまり、いや、トラウマは、涙とともにすべて流れ



て行きました。親が愛していない子なんていない。また、わたしはそんな母親に謝ることのできる大人の見本を見ました。少年院の中で、自分探しをするように、私は差し入れられた聖書を貪り読みました。すると、ある箇所が心に飛び込んできました。『造られたもので、の前で隠れおおせるものは、何一つなく、神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。』という聖書の言葉でした。

わたしは警察にバレなくても、保護司にバレなくても、親に見つからなくても、神の前には、すべてお見通しである。だから、天の下で、これからは犯罪から遠ざかり、真つ当に生きて行かなければならないと思い至りました。それから、地元にかえって、友人の隠し持っているナイフを取り上げたり、薬物をやめるよう仲間に訴えかけたりする自分が変わって行きました。わたしは、神への信仰をもって、同じ境遇にある人たちの人生をやり直す手助けをしたいと牧師を目指すようになり、後に今私がしていますNPO法人・チェンジングライフという更生支援、自立支援の活動をするようになりました。

現在は主に、非行少年の中でも、親がいない少年、児童養護施設出身の少年たちの支援をしています。彼らは、親や頼れる大人が周りにいないことで、帰る家がありません。最後の砦である児童養護施設にも帰れませんが、そういう少年たちの帰る“居場所”となれるよう、東大阪市内に現在4室のワンルームマンションを借りています。

親や頼れる大人が周りにいなくなったという背景には、非行少年たちが幼少期の頃に、親からの虐待を受け、また、ネグレクト等による措置決定で児童養護施設へ。また、親の逮捕（長期間の社会不在）、親の蒸発など、様々な事情が存在します。非行に走ることは、本人の責任ではありますが、ある子どものケースは、親に虐待されて、乳児院、児童養護施設で育ち、その施設の中でも、上級生から性的虐待を受けて育ち、搾取されないために暴力を身に付け、非行に走るようになったこともあります。加害者の中に被害者性が存在するのです。わたしたちは、非行少年の中でも、頼れる大人や住居を失った子どもたちの、帰れる居場所（生活拠点）となることを目指して、活動して来ました。

現在、東大阪市内に、4室のアパートを用意して、必要最低限の電化製品、自炊道具を用意して、子どもたちの自立拠点としています。去年は3名の青少年（17歳、17歳、20歳）が、わたしたちのホームに半年近く滞在し、そこで自立資金を貯め、自分名義のマンションを契約し、巣立って行きました。

また、私たちのホームから巣立ったのちも、継続して、フォローアップが必要な卒業生8名～10名の青少年のアフターケアを実施することが出来ました。

自立は一つのゴールで、細く長く伴走してくれる“大人”を彼らは必要としています。そして、支援を受けた子どもが、愛情を受け、成長し、今度は“かつての自分”に手を差し伸べる、ピアサポートの連鎖が起こされる、そんな共生社会を夢見て、前進しています。

